

歯科医が怯える「医療Gメン」

「医療費削減を目的に診療報酬の不正請求を摘発する厚生労働省の実働部隊、「指導医療官」。『指導』を名目に恫喝を繰り返し、追い詰められた歯科医が自殺したケースも……。」

ジャーナリスト 田中幾太郎

「いきなり『口を開けてください』

ですからね。ビックリしました」

こう話すのは、首都圏に住む40代の男性。昨年夏の休日、「指導医療官」を名乗る男が突然、自宅マンションを訪ねてきた。「あなたが通院している歯科医院のことを探べている。協力を願いしたい」と言われた。

「自宅は困ると言うと、近くの喫茶店に連れて行かれ、どんな治療を受けたのか聞かれたあと、口の中をチェックされたんです。指導医療官は細かく治療跡を調べ、レセプト（診療報酬明細書）の写しを見ながら『この治療は受けないようですね』と言うので、私も『記憶にありません』と答えました。のちに聞いたところによると、その歯科医院は厳重注意を受け、過剰請求した診療報酬

を自主返納させられたそうです」

指導医療官とは、保険医療機関の診療報酬の請求を指導・監査する厚生労働省の医療技官。各都道府県の厚生局に配属されている。

医師または歯科医師の資格を有していることが条件だが、指導する

対象にベテランの開業医が数多く含まれるため、舐められたりしない

よう、病院の部長クラス以上から起用されるケースがほとんど。

彼らの最大の任務は不正請求の摘

発であり、別名「医療Gメン」とも呼ばれる。悪質だと判断され

るだけに、その権限は絶大だ。

「本来の指導という意味合いは薄れ、やっているのは取り調べに近い。指導医療官の行為はあくまで

も任意の行政指導に過ぎないはず

要求される。開業医に圧力を掛け

ることによって、医療費抑制を図るというのが厚労省の狙いなんですね」と話すのは、かつて指導医療官を務めた歯科医。

「私が扱ったケースではありませんが、自殺に追い込まれた歯科医が出たと聞き、この仕事は長くは続けられないなと思いました。人間がどんどん悪くなっていくような気がして、早々に辞めさせてもらうことになりました」

それから半年後の9月、M歯科

医師の元に監査の通知が届いた。

4日後、自殺を図ったが、発見さ

れ未遂に。その1週間後、再び自

殺を図り、還らぬ人となつた。

「1回目の指導から2回目乃至

過程で9カ月もの中断。最初の指

導医療官の暴言のせいで、M先生はすっかり怯え、長期にわたり不

安の日々を過ごしたんです。そし

て、いきなりの監査通知。精神的

に追い詰められた末での自殺だつて調べてやつてもいいぞ。受付や助手から直接聞いてもいいんだぞ」と、まるで凶悪犯を取り調べる刑事のようにM歯科医師を恫喝した。

「おまえすべてを失うぞ」

2007年9月、都内で歯科医

院を営むM歯科医師が自殺した。

享年57。指導医療官の行きすぎた「指導」が原因だった。

2人の指導医療官から第1回目

の個別指導を受けたのは06年4月。患者から通報があつたという。



医療費削減圧力は強まる一方（厚労省）

「個別指導の目標数（医科、歯科、調剤薬局を合わせ年間8,000カ所）を定め、各地の厚生局では実質的に指導医療官に過重なノルマを課すようになつたんですね」（元指導医

「自殺した例がほかにもいくつもあると聞いている。ただ、遺族の側が望まないため、ほとんどが表沙汰になつていません。たとえ自殺までいかなくとも、指導医療官の逸脱した指導によって、歯科医が鬱病を発症するケースは非常に多い」

M歯科医師の診療報酬請求に不備があつたのは事実のようだが、厚労省や指導医療官にひとりの人間をここまで追い込む権利はあるのだろうか。こうした悲劇は「氷山の一角」と話すのは、前出の元指導医療官だ。

た」（関係者）

M歯科医師の自殺については、全国保険医団体連合会が抗議集会を開く一方、舛添要一厚労相（当時）が参議院厚生労働委員会で「たんと指導していきたい」と答弁。

M歯科医師の自殺についてには、全国保険医団体連合会が抗議集会を開く一方、舛添要一厚労相（当時）が参議院厚生労働委員会で「たんと指導していきたい」と答弁。

M歯科医師の実態が世間に広く知られるところとなつた。

「省内で自制する旨の通達が出され、一時的に指導医療官の乱暴な言動や威圧的な態度は影を潜めた。ところが、喉元過ぎれば熱さ忘れる、じゃないが、しばらくすると再び、指導医療官の跋扈が始まつた。厚労省は

「特に歯科の場合は、医科と違つて、口の中を見れば、どんな治療がなされたのか一目瞭然。不正はすぐに見抜かれてしまう」（同）

この状況に悲鳴を上げているのは日本歯科医師会だ。厚労省の医療指導監査室に昨年5月、今年4月と続けて要望書を提出。「指導

「こうした輩が歯科業界の代表みたいな顔をしながら媚びへつらうから、指導医療官は自分が偉いと勘違いしてしまう」とは、元指導医療官。いずれにしろ、医療費削減が最重要課題の厚労省にとつて、歯科医を震え上がらせる指導医療官たちは、使い勝手のいい便利な存在なのである。

た」（関係者）

今さら悲鳴を上げる日歯

療官）

背景には、医療費の情報開示が進んだ点が挙げられる。10年4月

1990年代半ば、京都で起った指導医療官への贈賄事件では、京都府歯科医師会の幹部たちが芋蔓式に逮捕された。07年に発覚した東京歯科大学同窓会を舞台とした指導医療官への贈賄では、逮捕者の中に日歯の前専務理事が含まれていた。

本来のあり方を超えて枝葉末節なり、極めて威圧的な雰囲気」だとして、改善を求めた。ただ、日歯がこうした要求をすること 자체、「お門違い」との声もある。

「指導医療官に多額の現金を渡したり過剰接待して、癒着してきた張本人たちが改革なんて言う資格はないのではないか」（厚労省）



弊誌への登場回数で上位に名を連ねる某金融機関は、大切な読者でもあります。地下の墨刷には、他社は5年間の貯金制度だが、弊誌は平成以降25年分の「クオナリー」が储えられ、ご丁寧に廃棄処分禁止」の貼り紙までされております。今後ともご登場&愛読お願いいたします。